

# 第3章

本県水産業を取り巻く  
情勢変化と課題

# 本県水産業を取り巻く情勢変化と課題

## ■本県水産業を取り巻く情勢変化

### 海洋環境の変化と水産資源の変動

- ・気候変動に伴い、水産資源や漁場、魚種、漁期が変化するとともに、海水温の上昇による磯焼け<sup>\*</sup>の進行や養殖における生育不良と収穫量の減少、赤潮の頻発等が懸念されています。
- ・TAC対象魚種の拡大など、資源管理の高度化が進められています。

### 国内外における水産物の需要の変化

- ・人口減少の進行や、魚食文化の衰退等により、国内需要が縮減する一方で、海外においては、日本食ブームなどにより需要が拡大しています。
- ・国内消費は、コロナ禍を経て、より簡便化志向になっています。

### デジタル技術等の進化

- ・AI<sup>\*</sup>、IoT<sup>\*</sup>などデジタル技術が日々進化していく中、水産業においても生産活動の省力化や効率化、水産物の高付加価値化により生産性を向上させる「スマート水産技術<sup>\*</sup>」を活用する取り組みが広がっています。

### 漁港、漁村、漁協を取り巻く情勢変化

- ・漁港施設等インフラの老朽化が進行しており、激甚化・頻発化する自然災害や海面上昇の影響も懸念されています。
- ・正組合員の減少や高齢化、漁協職員の不足等で、漁協組織が脆弱化しています。

### 水産業の担い手の減少

- ・人口減少により、地域における水産業（漁業、加工、流通）の担い手不足が進行しています。
- ・外国人技能実習制度から育成就労制度<sup>\*</sup>への見直しの動きが進んでいます。

### 燃油や物価高騰の影響

- ・国際情勢を背景とする燃油等のエネルギーや資材価格の高騰による生産活動や物流等への影響が継続しています。また、養殖用飼餌料や加工原料の価格高騰が経営体の収支に影響しています。

### 消費者の価値観の変化

- ・ニーズや価値観が変化しており、モノ消費からコト消費、トキ消費<sup>\*</sup>へと多様化しています。
- ・国は「海の地方創生」を掲げ、海業を推進しています。

## ■ 本県水産業の課題

本県水産業を取り巻く情勢や、前計画の成果検証等を踏まえ、今後重点的に取り組むべき課題を以下のとおり整理しました。

### 漁業の収益性向上

漁船漁業については、水産資源の持続的な利用に向け、生産力の高い漁場づくりや資源管理の取組を着実に実施しつつ、スマート水産技術の活用や経営多角化等により、環境変化に適応し、収益性を高める取組が必要です。

養殖業においては、輸出等を見据えた漁場の有効活用をはじめ、高水温や赤潮<sup>※</sup>等のリスクに強い安定した体制の構築などに取り組む必要があります。

水産物の生産・流通を支える拠点漁港<sup>※</sup>については、激甚化・頻発化する自然災害に対応しつつ、必要な集出荷機能が確保されるよう、着実に整備を進める必要があります。

### 加工・流通の強化

物流を取り巻く環境が変化し、輸送にかかるコスト等が高騰する中、本県水産物が国内外で競争力を高め、優良な販路を確保・拡大するための取組が重要です。

産地魚市場における安定的な集荷体制の確保や、高度衛生管理型市場の強みを活かした付加価値向上、ニーズや流通事情の変化に対応した産地加工やバリューチェーン<sup>※</sup>の強化、本県の地理的強みを生かした多様な国への輸出展開などが重要な課題です。

### 水産業の担い手の確保・定着

人口減少や漁業就業者の高齢化等が進行しており、次代を担う漁業就業者の確保は引き続き重要な課題です。新規漁業就業者の安定的な確保はもとより、漁業就業後の定着を促進するための丁寧なフォローアップや、地域で新規就業者を支える体制づくり、快適で暮らしやすく働きやすい漁村の環境を整えていくことも必要です。

### 漁村の活性化と水産物の魅力発信

本県は、美しい海や漁村の景観、美味しい多種多様な魚介類などの魅力に富んでおり、これらを最大限活用することで、より効果的に本県の水産業や水産物の魅力を発信できると考えます。

直売所や釣り体験などの海業の展開や地域イベントの開催など、交流促進の取組により漁村の活気を高めるとともに、地域が地元水産物等に愛着と誇りを持ち、その魅力を発信していく取組が必要です。

### 漁業協同組合の機能強化

浜の中核組織として漁業者を支える漁業協同組合は、正組合員の減少と高齢化、漁協職員の減少を含め基盤の脆弱化が進んでいます。漁協がその機能や役割を果たしていくためには、漁協合併や事業連携、業務効率化、職員の確保・育成等により漁協の体制を維持・強化していく必要があります。

第1章  
データで見る  
本県水産業の現状と  
取り巻く環境

第2章  
前計画の成果検証

第3章  
本県水産業を  
取り巻く情勢変化と  
課題

第4章  
計画の主旨

第5章  
基本目標別の  
取組方針

第6章  
海区別の取組方針

第7章  
試験研究の取組方針

第8章  
私たち若手職員が  
描いていく長崎県の  
水産業の将来像